

鹿児島県鹿児島市 殿

令和6年7月吉日
公益社団法人 日本船舶海洋工学会
ふね遺産審査委員会委員長 橋本 州史

第8回ふね遺産認定のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本船舶海洋工学会は創立120周年を機に、2017年から「ふね遺産」認定制度をスタートさせました。

歴史的で学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連設備を「ふね遺産」(Ship Heritage)として認定し、社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるとともに、「ふね遺産」を通じて、国民の「ふね」についての関心・誇り・憧憬を醸成し、歴史的・文化的価値のあるものを大切に保存しようとする気運を高め、我が国における今後の船舶海洋技術の幅広い裾野を形成することを目的としています。

当学会では、学会誌やホームページなどでふね遺産候補を一般公募し、応募された案件を学識経験者で構成されたふね遺産審査委員会（さる令和6年6月17日に開催）においてふね遺産認定基準に基づき審査した結果、深田サルベージ建設株式会社 村岡 英一様からご推薦いただきました潜水艇「はくよう」を、「大陸棚（水深200～300m）開発のための有人潜水作業船の第一船」として他の2件とともにふね遺産に認定することとなりました。

当学会では、認定されたふね遺産を学会誌「KANRIN」やホームページで社会に広く発信させていただくこととしております。令和6年9月13日に東京で認定式を行い、認定書および認定プレートを贈呈させていただく予定です。

なお、本認定事業は学会として学術的観点から行うもので、法的拘束あるいは保存維持経費などの支援を直接行うものではないことを申しそえます。

敬具

今給黎教子 殿

令和6年7月吉日
公益社団法人 日本船舶海洋工学会
ふね遺産審査委員会委員長 橋本 州史

第8回ふね遺産認定のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本船舶海洋工学会は創立120周年を機に、2017年から「ふね遺産」認定制度をスタートさせました。

歴史的で学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連設備を「ふね遺産」(Ship Heritage)として認定し、社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるとともに、「ふね遺産」を通じて、国民の「ふね」についての関心・誇り・憧憬を醸成し、歴史的・文化的価値のあるものを大切に保存しようとする気運を高め、我が国における今後の船舶海洋技術の幅広い裾野を形成することを目的としています。

当学会では、学会誌やホームページなどでふね遺産候補を一般公募し、応募された案件を学識経験者で構成されたふね遺産審査委員会（さる令和6年6月17日に開催）においてふね遺産認定基準に基づき審査した結果、公益財団法人 日本セーリング連盟会長 馬場益弘様からご推薦いただきました世界一周ヨット「海連」を「今給黎教子氏による日本人女性初の世界単独一周に用いられたヨット」として、他の2件とともにふね遺産に認定することとなりました。

当学会では、認定されたふね遺産を学会誌「KANRIN」やホームページで社会に広く発信させていただくこととしております。令和6年9月13日に東京で認定式を行い、認定書および認定プレートを贈呈させていただく予定です。

なお、本認定事業は学会として学術的観点から行うもので、法的拘束あるいは保存維持経費などの支援を直接行うものではないことを申しそえます。

敬具

宮城県石巻市 殿
鮎川まちづくり協会 殿

令和6年7月吉日
公益社団法人 日本船舶海洋工学会

第8回ふね遺産認定のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本船舶海洋工学会は創立120周年を機に、2017年から「ふね遺産」認定制度をスタートさせました。

歴史的で学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連設備を「ふね遺産」(Ship Heritage)として認定し、社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるとともに、「ふね遺産」を通じて、国民の「ふね」についての関心・誇り・憧憬を醸成し、歴史的・文化的価値のあるものを大切に保存しようとする気運を高め、我が国における今後の船舶海洋技術の幅広い裾野を形成することを目的としています。

当学会では、学会誌やホームページなどでふね遺産候補を一般公募し、応募された案件を学識経験者で構成されたふね遺産審査委員会(さる令和6年6月17日に開催)においてふね遺産認定基準に基づき審査した結果、船の科学館 小堀信幸氏及び庄司邦昭氏からご推薦いただきました、捕鯨船「第十六利丸」を「戦後最盛期の捕鯨船団を構成した現存する大型高速キャッチャーボート」として、他の2件とともにふね遺産に認定することとなりました。

当学会では、認定されたふね遺産を学会誌「KANRIN」やホームページで社会に広く発信させていただくこととしております。令和6年9月13日に東京で認定式を行い、認定書および認定プレートを贈呈させていただく予定です。

なお、本認定事業は学会として学術的観点から行うもので、法的拘束あるいは保存維持経費などの支援を直接行うものではないことを申しそえます。